

活動徐々に

☆☆ みんな笑顔で登校 ☆☆



ルスにかからないように、全校児童と先生で工夫しながら『新しい学びのスタイル』で学業に取り組む。

警戒は緩めず

口々に『先生おはようございます』マスク着用で集団登校の児童が、学校前の歩道で迎える先生と朝の挨拶を交わして昇降口に入っていく。

6月1日、臨時休校と分散登校を経て約2ヶ月半ぶりに新型コロナウイルス感染症対策として『新しい学びのスタイル』で学校生活が再開された。学校給食は、普段より品数を減らして提供（栄養カロリーは確保）している。配膳の回数や時間を抑え、児童が密集することによる感染リスクを減らす狙い。

学校での過ごし方は、教室の机と机の間隔を広く取り、授業中や給食は前を向くなど、できるだけ向かい合って活動することのないように工夫をしている。本来であれば大勢で集まって運動・遊戯を、おしゃべりしながら給食を食べたいが、コロナウイ

わかほ公民館ホールでスポーツ利用再開

わかほ公民館は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としてホールや講習室の利用を認めていなかったが、緊急事態宣言が解除されたことにより、6月1日より感染防止対策を講じ利用が可能となった。

早速、卓球クラブ、剣道クラブ、バレーボールクラブ、体操サークルの利用申し込みがあり、夜間の予定表は埋まったとのこと。この日、利用していた、ジュニア卓球クラブでは、ホール一面に卓球台を並べ、小学生から中学生20余名がコーチの指導のもとに、素振り、フォームの修正、体幹トレーニング、実践を意識した対戦と練習メニューに取り組んでいた。

若きアスリートも、久しぶりの練習に『きつい』と声を出すも、うまくなりたい、強くなりたいと、気持ちのいい汗をぬぐっていた。

(再開したジュニアクラブの練習)



□気を配りたい夏場のマスク着用□

夏場に向かうにつれ、コロナ感染症と熱中症の話題が気になる。気を配りたいのはマスクの使い方だ。どこに行くにもマスクを着けていないと周りの視線が気になるが、厚労省では2m以上の距離が保てる場合は外すように促している。気温が高い中で着用すると、心拍数や呼吸数が上がり熱中症のリスクが高くなる。いつもと違う夏を自覚しながらも無理しないことが大切です。

□自治会活動の保険について□

若穂地区住民自治協議会や各自治区で主催する活動や行事を対象とする自治会活動保険に加入しています。自治会活動中などで生じた事故が対象となります。万一、事故が発生した場合、自治区長経由契約保険代理店および若穂地区住民自治協議会にご連絡下さい。

□ 遺跡の説明看板・案内板の設置事業始動 □

設置候補地：和田東山古墳群 3号墳（上和田）

まちづくり部会では令和2年度の事業として、若穂郷土史研究会との協働による標題の事業を企画しました。この事業は、若穂地区内にある遺跡（古墳、住居跡、城館跡等）に案内看板を3年計画で設置しようとするものです。今年はその初年度として、事業費総額約100万円で30ヶ所に設置する計画です。若穂郷土史研究会は昨年度予備調査を行い作成した基本計画を基に、長野市が募集した「令和2年度まちづくり活動補助金」にエントリーしたところ、予備審査、本審査をパスして採択となり、補助額上限の70万円（補助率70%）が交付されることになりました。実行部隊の主となる



若穂郷土史研究会では、コロナウィルスの感染拡大により収束の兆しが見えたことから、作業チーム（WG）を発足させ、計画実現に向けて第一歩を踏み出しています。設置にあたっては、事業費のほとんどが物品費で終わってしまうため、多くの人の労力奉仕が必要となります。また遺跡の所有者や地権者のご理解が必要となるので、皆様がたのご参加、ご協力をお願いします。

□ 綿内東町 農地基盤整備事業の進捗 □

（山新田工区よりの北信五岳を望む）

綿内東町地域で取り組みを進めている樹園地基盤整備事業（対象面積18ha）は、長野県下はもとより全国から注目されている事業です。果樹産業を継続、振興する為、遊休・荒廃農地に歯止めをかけ、農業生産性の向上を図ります。現在、先行している山新田工区では道水路計画（骨格）の承認、換地計画の承認を経て地権者の新農地（換地）場所が確定。入植する担い手就農者から栽培規模、栽培品種などが提示され、利用権設定に向けて調整中です。8月お盆頃までに詳細工事計画が決定、秋には区画整備工事に着手する。 令和4年4月に営農開始。



清水工区は発見された古墳群の発掘調査のため1年遅れでスケジュールされている。（予備調査で古墳4基発見⇒本格調査へ）

行事予定の変更： 第5回 わかほ福祉まつり（愛のたすけあいバザー含む）中止